

3月8日は国連が定めた「国際女性デー」です。女性の社会参画や地位向上を訴え活躍をたたえる日として、世界各地で記念行事が行われます。黄色いミモザの花がシンボルとされています。

ジェンダー平等実現に向けて 活動する団体を紹介します



あゆみ
後藤亜由水さん

前橋市出身
お茶の水女子大学 在学中

NPO法人ウィメンズウイルぐんま副理事長の
後藤亜由水さんにお話を聞きました

ウィメンズウイルぐんまとは？

1999年に施行された「男女共同参画社会基本法」に伴い、群馬県では翌年「女性のための県政参画講座(計20回)」が開催され、受講したメンバーが修了生の会を発足し、2004年にNPO法人ウィメンズウイルぐんま(以下:ウイル)を設立しました。ジェンダー平等実現のために研究者を招いて学習会や講演会、映画上映会を自主開催しています。一昨年、法人設立20周年を迎えました。

入会したきっかけは？

母が仕事をしていたため、祖父母に育てられました。祖父は「女性だからこそ大学へ行くべき」という考えを持っており、母も祖父母に「女の子だから〇〇しろ/するな、という言い方はしないで」と伝えていたそうです。そのようなジェンダー平等意識が強い環境で成長する中で、世間の「女性らしさ」という言葉に違和感を覚えるようになりました。こうした経験から、母が所属していたウイルへの入会を決めました。



ジェンダーについての考えは？

私は、「男らしさ」や「女らしさ」といった概念を完全に無くすべきとは考えていませんが、強制されることには抵抗があります。さらに、ジェンダーから生まれる不平等、いわゆるジェンダーギャップは無くすべき課題です。「自分らしさの表現」としての問題意識が重要だと感じています。

ジェンダーは、歴史・文化・制度が絡む複合的な概念と考えています。

GENDER
Equality

現在、取り組んでいる事業は？

若い女性が群馬県から離れてしまう背景に問題意識を持ち、「小さな架け橋プロジェクト」を立ち上げました。ウイルは高齢メンバーが多いものの、みなさん「社会を変えたい」という強い思いを持って活動してきた魅力的な方々です。このプロジェクトでは、若い世代との交流を通じて、双方が刺激を受け合える関係を築くことを目指しています。ジェンダーに限らず、多様なテーマで交流する可能性を探り、群馬県の補助金を活用し、3年計画で映画上映会や落語、交流会を実施予定です。世代や立場を超えて人と人をつなぐ「小さな架け橋」を作ることが目的です。



奇数月の第3土曜日に「ぐんま男女共同参画センター」にて定例会を開催。老若男女を問わず会員募集中。

活動を通して見えてきた課題は？

例えば、群馬県立高校の男女別学問題をあげても、ウイルの中では様々な意見があります。また、LGBTQやフェミニズム(※1)に対する考え方も人それぞれで、多様な価値観が存在しています。県や市、地域といった枠組みを一括りにして語ることはできないという認識も共有されています。

一方で、ウイルメンバーの世代交代が進まず、新規会員が増えないことが課題となっています。そのため、ジェンダー課題がウイル内の価値観にとどまっていないかを問い直す必要性を感じており、より多様な立場や世代の入会を促していきたいと考えています。

(※1) 性別による差別の撤廃と男女平等の実現を目指す思想や運動

最後にひとこと

ジェンダー平等の意識を広めながら、前橋市がワクワクできる街であってほしいと思っています。東京の真似をするのではなく、前橋ならではの魅力を、地域の人たちみんなが育てていくことが大切です。ウイルが20年間の活動で築いてきたネットワークを生かし、新しいテーマにも取り組み、活動の幅を広げていきたいと思えます。



NPO法人ウィメンズウイルぐんま

前橋市には、様々な社会課題に取り組む女性団体があります。本記事をきっかけに関心を持っていただけたら嬉しいです。(記事：山口)



ウィメンズウイルぐんま からのお知らせ

林家つる子さんと若者の「話の会」と落語「噺の会」
3月21日(土)13時半～15時半 群馬会館にて開催
詳細・お申し込みは二次元コードから



このニュースレターは、市民ボランティア編集委員と前橋市が協働で作成しました。

前橋市 市民部 共生社会推進課 TEL 027-898-6517